



広島もみじまんじゅうラウンド



～活動の報告～

2月15日（土）に安田女子大学を主会場に、集合17名、WEB7名の計24名の参加者で、次の内容で会を進行しました。

○自己紹介タイム

○体育科教育に係る研究内容に関する発表

環太平洋大学体育学部4年 坂田 大耀

熊野町立第四小学校研究主任 濱田孝之輔

○体育・保健体育授業を取り巻く国の動向

桐蔭横浜大学教授 佐藤 豊

○グループワーク「小・中・高 系統的な学びのための具体を考えよう」

～球技・ボール運動系「ネット型の授業づくりを例に～

○情報提供「単元全体のゴールや文脈をイメージすることの重要性」 北海道教育大学教授 中島 寿宏

○本ラウンドの総括

安田女子大学教授 徳永 隆治

体育科教育に係る研究内容に関する発表

環太平洋大学4年の坂田さんからは卒業研究で取り組んだ「器械運動における（3）学びに向かう力人間性等『健康・安全』の授業に関する一考察」について、また、熊野町立第四小学校濱田先生からは、自校における研究実践や重点的に取り組まれた「共生の視点」や「振り返りの充実」に向けた取組の実際について報告をいただきました。

体育・保健体育授業を取り巻く国の動向

佐藤先生からは、令和6年12月25日に中央教育審議会に対して諮問された内容に関する情報や次期学習指導要領改訂に向けて、検討されている内容等の動向についてお話をいただきました。体育・保健体育についてはその強みとして（3）学びに向かう力、人間性等に関する指導内容が位置付いていること、そして3つの観点で目標に準拠した評価を行っている点にあること、こうした体育の強みについて語られているYouTube動画についても紹介していただきました。

☞ 溝上慎一の教育論動画チャンネル：https://www.youtube.com/watch?v=UCqe1H9P_9U

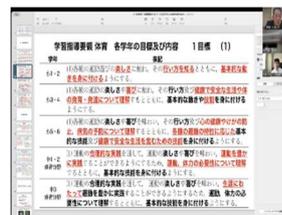
グループワーク

ネット型を例に、小・中・高でどのように子供たちの資質・能力をバランスよく育てていくための指導の具体について、4つのグループに分かれてアイデアを出し合いました。3つの資質・能力に同時にアプローチする内容となったため、短時間でアイデアをまとめていくのは大変そうでしたが、高等学校卒業時のゴールの姿をイメージしながら、様々な意見が出されました。



情報提供

中島先生からは、学習指導要領の記載内容から、小学校、中学校、高等学校の12年間を通して、何に留意し、指導をしていくことが求められているのか、また、体育における授業づくりの際の意識を熟練教師と新任教師と比較し、熟練教師は何を意識して授業をしているのかなど、研究の視点からお話をいただきました。学習指導要領の内容を校種で縦に並べて比較して読んだり、その発達段階でどんな内容が重点化されているのかを読んだりすることで、校種間のつながりの持ち方や他教科にはない体育・保健体育の特質も明らかになっていることがわかりました。



ラウンドの総括

徳永先生からは、まとめのお話をいただきました。校種間のつながりが見える化するワークを通して、子供たちの学びを分断することなく、系統的に指導していくことの重要性や互いに集い、意見を出し合うことの大切さなどについて、お話をいただきました。カーブのユニフォームが登場しなかったのが残念です。次年度に期待します！

ドタバタでしたが、参加して下さった皆様、様々な面で支えてくださりありがとうございました！（文責：清田美紀）